



笑顔でスタート!ニコニコ鬼広場

① ニコニコ鬼広場 (高浜港駅前)

現代の鬼師の手による奈良・東大寺転害門の鬼瓦を模した巨大鬼面(表紙写真)と、未来の鬼師と期待されている小学生が腕をふるったいぶし瓦焼きの鬼面のモニュメントが仲良く皆さんをお出迎えます。



② 鬼パーク

瓦の輸送が海運から鉄道に移った大正時代にひらかれた切通し坂にある鬼パークには、鬼みちコースのガイド板があり、ユーモラスな顔の鬼面の椅子がずらり。



鬼パークをすぎ、坂を下ってゆくと、高浜の昔話をいぶし瓦焼きで作った陶板が切通の斜面を飾っています。

③ 土管の坂

明治から昭和にかけて瓦と共に土管も主力製品でした。土管坂と呼ばれている南北の坂道は、浜辺から小高く続く地形を生かした登り窯が並び、焼き上がった土管でいっぱいだったためにその名が付けました。坂の途中にある土管や裏道に残る大型土管の土留めが往時を偲ばせてくれます。

土管のような瓦も焼きました。東京国立博物館本館の屋根に使われています。(常照院所蔵)。



シャッターチャンスをおあなたに!

④ 浜地藏

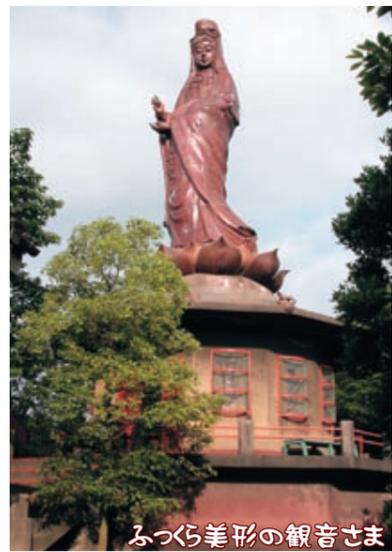
その昔、海から引き上げられた石のお地藏さまが浜辺にまつられ、海で働く人々の守り神・浜地藏として平安時代から永く信仰されてきました。堂内には江戸中期の奉納絵馬がかけられ、今では町内のお地藏さまとして、地藏盆のご開帳には子どもたちが大勢押しかけます。



お盆には地獄・極楽図絵もご開帳!

⑦ 観音寺

高さ8mの陶管焼の観音像は日本一の大きさとか。高浜の鬼師が昭和34年に制作。守護する十神将のレリーフや三邪鬼が支える陶製大香炉、鐘楼の四隅にめずらしい下向きの鬼瓦、本堂の破風飾りなどみどころがいっぱいです。



ふっくら美形の観音さま

⑤ かわら美術館

千石船をイメージした幾何学的な屋根の美術館には、白鳳・天平時代をはじめ中国や朝鮮半島のものを含む古代瓦が常設展示されています。ここを訪れ瓦の文化にふれることできっと風景の味わいが深まることでしょう。また、陶芸教室もあり焼き物づくりが楽しめます。



国内外の瓦文化一堂に



鬼師や地元陶芸家がつくった魚が波間から顔を出している森前公園

⑥ 森前公園

海に見立てた瓦庭。うねった波のように敷きつめられたいぶし瓦の海原には、魚や亀やヒトデなどが隠れ、龍や鬼面の瓦垣とあわせて公園の楽しさを演出しています。園内にある復元“だるま窯”と市指定文化財の“塩焼瓦窯”が瓦づくりの歩みを物語っています。



⑨ 恩任寺

本尊き屋根の山門と太鼓楼をもつ恩任寺は、大浜の西方寺、高取の専修坊とともに浄土真宗の浜三ヶ寺と呼ばれた名利。創建は不明ながら本堂は文明13年(1481)に再建された由緒あるお寺です。



さがしてあるこう!飾り瓦



秋葉・若宮社の破風飾りの龍



⑧ 塩前寺

境内の不動明王の石像から高浜不動とも呼ばれるこの寺院は、屋根の留蓋飾りの“烏天狗”が見ものです。

⑩ 蓮乗院

明治28年(1895)、本堂を改築した際に飾り瓦として“おとぎばなし”にまつわる天女や仙人、亀や竜宮城などを屋根にあげ、楽しい雰囲気を出しているお寺です。



おとぎの世界の飾り瓦がいっぱい!



⑪ 道祖神

烏帽子姿で御幣をもった男神と女神の双体道祖神は市指定文化財。刻まれているのは「左高取刈谷道 右高浜大浜浦」の文字からして元は別の場所にあったようです。昔をしのぼせるたたまいを残しています。



⑫ 馬頭観音

かつて瓦や粘土や燃料の運搬の主役は馬車でした。このお堂は馬の働きに感謝して馬主たちが大正5年(1916)に建立し、平成7年(1995)に改築されました。“おまん”で知られる氏神の鳥居前にふさわしい疾走馬の彫物は建立時のものです。



⑬ 大山緑地 ⑭ 春日神社

勇壮なおまんと祭で知られ、姫大神など7神が合祀されている高浜の総氏神春日神社の境内です。大鳥居をくぐると陶管焼の狛犬がお迎え。旧高浜町内の氏神さま13社が遷され、瓦の町にふさわしい飾り瓦が見もの。境内には瓦の遊歩道や瓦庭、神社裏手のユーモラスな廻り8mの陶管焼大だぬき、天保年間(1830-44)奉納の石灯籠や船絵馬などみどころがいっぱいです。



永正年間(1504-21)に遷座した絵籠宇



♪♪♪のタヌキさん...



煙突が林立する1960年代の高浜 (田島彦司氏撮影)